平成２８年度全国学力・学習状況調査分析結果

平成２９年２月
下 野 市 教 育 委 員 会

１　はじめに

下野市教育委員会では、平成２８年度の全国学力・学習状況調査の概要について、第一段階として、１１月１日付けで速報をお知らせしました。

本年度も第二段階として、下野市全体としての結果を分析し、公表いたします。各学校や御家庭におかれましては、この分析結果を今後の学習指導の工夫改善や児童生徒の学習意欲、学習習慣の向上に役立てていただきたいと思います。

２　下野市全体の傾向

(1)　学力調査の結果より

①学力調査について

学　力　調　査		下野市	栃木県（公）	全国（公）
調査対象人数内訳	小学校１２校	※ 517 人	※ 16,791 人	※ 1,021,910 人
	中学校　４校	※ 589 人	※ 17,231 人	※　996,578 人

※国語Ａ・Ｂ、算数・数学Ａ・Ｂのうち最も参加人数が多かった数値で示してある。

□Ａ問題(主として「知識」に関する問題)
□Ｂ問題(主として「活用」に関する問題)
◇国語の領域（小・中）「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
◇算数の領域（小）「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」
◇数学の領域（中）「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」

②全体比較

平成28年度全国学力･学習状況調査(学力調査)結果

下野市と全国平均正答率との比較【Ｈ２０～２８全体比較】

※ H23、24 は抽出調査

◎大きく上回っている（5 ポイント以上）　○上回っている（1 ポイント以上 5 ポイント未満）
－同じ（±1 ポイント未満）
▽下回っている（1 ポイント以上 5 ポイント未満）　▼大きく下回っている（5 ポイント以上）

小学校	H20	H21	H22	H25	H26	H27	H28	中学校	H20	H21	H22	H25	H26	H27	H28
国語Ａ	○	○	○	○	▽	▽	－	国語Ａ	○	○	○	○	○	○	○
国語Ｂ	○	○	－	○	○	－	○	国語Ｂ	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
算数Ａ	○	－	○	○	－	－	－	数学Ａ	◎	◎	◎	○	○	○	○
算数Ｂ	○	－	○	○	○	○	○	数学Ｂ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○

平成２８年度の全国学力・学習状況調査の下野市の結果は、小学校、中学校ともにすべての教科で、全国平均正答率を同等または上回る結果となった。

【小学校の全国学力調査全体結果について】

国語Ａ・Ｂ、算数Ｂでは、全国平均正答率を上回った。算数Ａでは全国平均正答率と同等の結果となった。

全体的には平成２０年度から年々全国平均正答率との差が縮まる傾向が見られているが、昨年度と比較すると全体的に回復傾向にある。

【中学校の全国学力調査全体結果について】

中学校は、国語Ｂが全国平均正答率を大きく上回り、国語Ａ、数学Ａ・Ｂが全国平均正答率を上回る結果となった。

全体的には全国平均正答率を上回ってはいるが、昨年度と比較すると数学Ｂにおいて全国平均正答率との差が小さくなった。

③領域別比較

全国学力調査結果　下野市と全国平均正答率との比較【Ｈ２８領域別比較】

◎大きく上回っている（5 ポイント以上）　○上回っている（１ポイント以上 5 ポイント未満）

－同じ（±１ポイント未満）

▽下回っている（１ポイント以上 5 ポイント未満）　▼大きく下回っている（5 ポイント以上）

小学校国語	国語Ａ	国語Ｂ	中学校国語	国語Ａ	国語Ｂ
話すこと・聞くこと	－	○	話すこと・聞くこと	○	
書くこと	▽	－	書くこと	○	◎
読むこと	－	○	読むこと	○	◎
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○	

小学校算数	算数Ａ	算数Ｂ	中学校数学	数学Ａ	数学Ｂ
数と計算	－	○	数と式	○	○
量と測定	○	－	図形	○	◎
図形	－	－	関数	－	○
数量関係	－	○	資料の活用	－	○

【小学校領域別の全国学力調査結果について】

国語Ａ問題は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国の平均正答率を１ポイント程度上回った。しかし「書くこと」では１ポイント、他の２領域では０～１ポイント程度下回った。全体では、１５問の設問中、１０の設問で全国の平均正答率を上回った。国語のＢ問題は、「話すこと・聞くこと」が全国の平均正答率を２ポイント以上上回った。また他の２領域でも０～１ポイント程度上回った。全体では１０の設問中、９の設問で全国の平均正答率を上回った。

算数のＡ問題は、「量と測定」「図形」で全国の平均正答率を０～１ポイント程度上回った。「数と計算」「数量関係」ではほぼ同等のポイントとなった。全体では１６の設問中、１１の設問で全国の正答率を上回った。算数のＢ問題は、「図形」が全国の

平均正答率を０～１ポイント程度下回ったが、他の３領域では０～２ポイント程度上回った。全体では１３の設問中、９の設問で全国の平均正答率を上回った。

【中学校領域別の全国学力調査結果について】

国語のＡ問題は、「書くこと」が全国平均正答率を４ポイント以上上回った。他の３領域は２～３ポイント上回った。全体では３３の設問中、３２の設問で全国の平均正答率を上回った。国語のＢ問題は、２領域とも全国平均正答率を５～６ポイント以上上回った。全体では９の設問のすべてで全国の平均正答率を上回った。

数学のＡ問題では４領域とも全国平均正答率を０～３ポイント近く上回った。全体では３６の設問中、２６の設問で全国の平均正答率を上回った。数学のＢ問題では、「数と式」「関数」で３ポイント以上上回った。「資料の活用」は４ポイント以上上回り、特に「図形」は、７ポイント程度上回った。全体では１５の設問中、すべての設問で全国の平均正答率を上回った。

④国語、算数・数学の課題

＊各教科ごとに、領域別に見て、全国平均正答率よりも低い結果となった設問について概要をまとめると次のようになる。

国　　語

【小学校】

《話すこと・聞くこと》

国語Ａの2「目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合う」設問が、０．３ポイント全国平均正答率を下回っていた。条件に応じた話合いの理解に課題がある。

《書くこと》

国語Ａの3「書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する」設問が、４．２ポイント全国平均正答率を下回っており、表現の仕方をとらえることに課題がある。国語Ｂの2の二「目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く」設問では、９．６ポイント全国平均正答率を下回り、グラフを読み取り、内容をまとめて文章化することに課題がある。

《読むこと》

国語Ａの6「登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える」設問では、２．４ポイント全国平均正答率を下回っており、根拠となる表現を読み取ることに課題がある。

《伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項》

国語Ａの1の一「漢字を読む」の設問３「省く」が、全国平均正答率を７．３ポイント下回り、1の二「漢字を書く」の設問２「親しい」では４．２ポイント下回った。漢字の書きについては無解答率も高く、昨年度に引き続き今年度も課題である。

【中学校】

《伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項》の領域、国語Ａの9の一「漢字を書く」の設問２「独創的」で１．４ポイント全国平均正答率を下回ったのみで、その他すべての領域・設問で上回った。

算数・数学

【小学校】
《数と計算》
　算数Ａの1の（１）「商の大きさ」、2の（３）「小数の除法」の設問では全国平均正答率を２～３ポイント下回った。また3の（２）「数の大小関係」の設問では６ポイント下回った。除数が１より小さいときの商の計算や、小数の除法の計算の確かめ方などの理解に課題がある。
　算数Ｂの5の（１）「示された形をつくることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く」の設問では１．７ポイント下回った。条件をすべてまとめて答えることに課題がある。

《量と測定》
　算数Ｂの4の（１）「単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができる」設問では、０．３ポイント全国平均正答率を下回った。また5の（２）「図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断する」設問では、０．６ポイント下回った。単位量や図形の大きさを正しく判断することに課題がある。

《図形》
　算数Ａの7「直方体における面と面の位置関係」の設問では、１．８ポイント全国平均正答率を下回った。当てはまるすべてを解答していないものと、無解答率が全国に比べやや高く、図形の条件を正しく理解することに課題がある。

《数量関係》
　算数Ａの8「長さの割合」の設問では、全国平均正答率を１．３ポイント下回った。また算数Ｂの4の（３）「グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述」する設問では、０．５ポイント下回っており、割合を使った数量関係の活用に課題がある。

【中学校】
《数と式》
　数学Ａの1（２）「自然数を選ぶ」、2（３）「不等式の意味を読み取る」、3（２）「一元一次方程式の解の意味を選ぶ」などの設問で、全国平均正答率を１ポイント以上下回る結果となった。基礎的な計算の定着に課題が見られる。
　数学Ａの2（２）「数量の関係を文字式に表すこと」の設問は、全国平均正答率を６．８ポイント上回っているが、正答率が３９．０％と低い。文字式を使った立式や計算に課題がある。また数学Ｂの6（２）「与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明する」設問でも、全国平均正答率を３．３ポイント上回っているが、正答率が１８．７％と低い。無解答率も３８．７％であり、文章で簡潔に説明することに課題が見られる。

《図形》
　数学Ａの5（３）「見取図に表された立方体の角の大きさの関係を読み取る」設問で、全国平均正答率を０．４ポイント下回り、6（２）「多角形の外角の和の性質を選択する」設問で０．７ポイント下回った。基礎的な図形の概念の定着が課題といえる。

《関数》
　数学Ａの１０の（２）「一次関数の式から変化の割合を求める」設問で、全国平均正答率を６ポイント下回った。9（２）「比例の式について、ｘの増加に伴うｙの増

加量を求める」設問、9の（３）「具体的な事象における２つの数量の関係が、反比例の関係になることを理解する」設問で、全国平均正答率を２ポイント以上下回った。また9の（４）「反比例のグラフから式を求める」設問では、０．７ポイント下回った。ほかの領域に比べ、関数の知識・理解は課題といえる。

《資料の活用》
数学Ａの１２（１）「資料を整理した表から最頻値を読み取る」設問が、全国平均正答率を６．５ポイント下回った。無解答率も１８．７％と高い。問題文の意図を読み取り、資料を活用して答えることが課題といえる。

(2)　学習状況調査（児童・生徒質問紙）の結果より

①学習状況調査について

学習状況調査		下野市	栃木県（公）	全国（公）
調査対象人数内訳	小学校１２校	517 人	16,791 人	1,021,910 人
	中学校　４校	590 人	17,231 人	996,578 人

質問数	小学校、中学校ともに８５問（共通項目）
回答方法（主に）	４つから選択 １　している（当てはまる） ２　どちらかといえば、している（当てはまる） ３　あまりしていない（どちらかといえば、当てはまらない） ４　全くしていない（当てはまらない）
質問内容	小学校、中学校ともに同じ内容 ○基本的生活習慣　○学習時間等　○国語､算数・数学の学習状況　○学習に対する関心・意欲・態度　○学校生活等　○家庭でのコミュニケーション等　○自尊意識・将来に関する意識　○規範意識等　○地域との関わり・社会に対する興味・関心　等

今年度の学習状況調査（児童・生徒質問紙）の結果は、小学校では８５項目中４８項目で全国・県平均と同等または上回っていた。中学校では８５項目中５０項目で全国・県平均と同等または上回っていた。
小・中学校とも共通して、「朝食」「平日のテレビ視聴時間」「平日のゲーム時間」「平日の携帯・スマホ利用時間」「平日の家庭学習時間」「学習塾での勉強」「新聞を読む」「学習を振り返る活動」「感想文や説明文を書く」「国語の勉強は好き」等について、よい傾向が見られた。

②良好な面

学習状況調査の下野市の結果を全国、県と比べて、小学校中学校ともに上回った質問内容は、次のとおりであった。１３項目で上回る結果となった。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(10)	普段(月～金曜日)、何時ごろに寝ますか ＊「午前０時以降」の割合が少ない	**1.7**	2.9	**13.9**	21.5
(11)※	普段（月～金曜日)、１日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・ＤＶＤを見たり、聞いたりしますか　　＊２時間未満	**48.1**	42.8	**56.3**	51.1

(12)※	普段（月～金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか　＊２時間未満	**72.1**	70.4	**73.2**	65.1
(14)※	学校の授業時間以外に、普段（月～金）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ＊１時間以上	**68.7**	62.5	**74.9**	67.9
(16)※	学習塾で勉強していますか	**53.8**	45.9	**65.2**	61.0
(37)※	新聞を読んでいますか	**28.3**	24.0	**23.9**	18.3
(54)	５年生（中学１、２年生）までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	**80.8**	76.1	**72.1**	63.1
(57)※	４００字詰め原稿用紙２～３枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか ＊難しいと思わない・どちらかといえば思わない	**44.7**	39.3	**43.1**	37.0
(58)※	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか ＊難しいと思わない・どちらかといえば思わない	**46.6**	45.0	**41.0**	26.9
(61)	国語の勉強は好きですか	**68.3**	58.3	**66.1**	59.8
(62)※	国語の勉強は大切だと思いますか	**94.2**	91.3	**92.4**	89.1
(72)	算数(数学)の勉強は大切だと思いますか	**94.6**	91.9	**84.8**	80.5
(82)	問題の解答時間は十分でしたか(国語Ａ)	**88.2**	85.2	**94.1**	93.3

数字は、選択肢１「している」２「どちらかといえば、している」の合計
または、選択肢１「当てはまる」２「どちらかといえば、当てはまる」の合計
※の質問番号は、平成２７年度も上回っていた質問

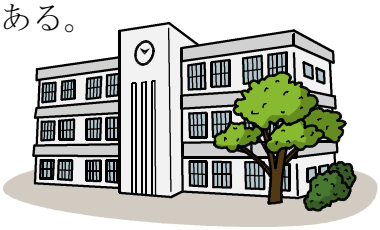
③課題とされる面

学習状況調査の下野市の結果を全国及び県と比べて、小学校と中学校ともに下回った質問内容は、次のとおりであった。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(36)	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	**35.8**	36.2	**41.9**	48.7
(67)	算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	**79.5**	81.0	**70.1**	72.1

３　国語、算数・数学の分析結果

※　本分析で使用している全国平均は、公立学校の平均である。



（１）国語

①小学校国語

ア　国語Ａ　（知識）

《全体的な傾向》

平均正答率はやや全国を下回った。領域別にみると、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国を上回る結果となった。しかし、他領域は全国を約１ポイント程度下回った。

1　漢字の読み書き
一　３　むだを省くようにする。（正答率　本市７３．７％　全国８１．０％）

二　２　したしい友人と出かける。（正答率　本市６６．５％　全国７３．８％）

3　表現の仕方について助言する
《問題文》【学年集会のお知らせの下書き】について、友達に助言をもらい、下書きの中のルール説明を書き直しました。その助言の内容として適切なものを二つ選びましょう。

《正答》１　ゲームの手順が分かりやすいように、内容のまとまりごとに番号をつけたほうがよい。
５　一文が長くて内容が伝わりにくいので、いくつかの文に分けた方がよい。
（正答率　本市６３．２％　全国６７．４％）

◇分析結果
１「漢字の読み書き」については、漢字の読みは７ポイント、書きは４ポイント全国の正答率を下回った。また、漢字の書きに関しては１０．４％が無回答であった。どちらも訓読みの漢字であり、両方とも児童にとって使い慣れない言葉である。「省く」ではなく「省略」、「したしい友人」でなく「親友」、のように音読みで出題されたならば、どうだったのだろうか。
３は、「書き手の表現をよりよくするための適切な助言を選ぶ」設問である。誤答を見ると、１と解答しているが、５と解答していないものが全国では１４．９％、本市は１７．９％であった。このことから、事柄の順序に沿って内容を分かりやすく伝えるために、内容のまとまりごとに番号を付けるという助言の内容を捉えることはできているが、一文が長くて内容が伝わりにくい場合、文を分けて一文を短くするという助言の内容を捉えることができていないと考えられる。

◎学習指導に当たって
ア　漢字を正しく読み、書く力は、文章を読解し思考を深めたり自分の考えを表現したりするために必要不可欠な基礎学力であり、さらに語彙を豊かにすることにもつながる力となる。上記３の問題の中に「助言」という言葉があった。児童にとっては「アドバイス」の方が聞き慣れた言葉であり、自分たちも使う言葉である。教師は、児童に対して分かりやすい言葉を使って指導する傾向にある。しかし、このことが語彙力を高める機会を逃すことにつながっている可能性があると考えられる。あえて児童にとって意味が分かりにくい言葉や聞き慣れない言葉も使い、「どういう意味だろう？」と考える機会を作ることで、児童の語彙力を高めていけるのではないだろうか。つまり、漢字の読み書きに関しては、筆順や送り仮名に注意して正しく書くことや文章の中で漢字を使っていくことと合わせて、語彙指導を行うことが必要だと思われる。
イ　本問のように、授業の中で文章をよりよくするために目的や意図に応じ表現の仕方について助言する実践的場面を与えることが必要である。例えば、友達が書いたものを読み合い、わかりやすい文章になるように助言し合う活動が考えられる。また、一文で長く書いてある文章を提示し、グループで話し合い、どのように助言するとよいか考える活動なども考えられる。その際、「一文は短く」「番号、箇条書き、つなぎ言葉の活用」など、わかりやすい文章にする具体的なポイントを取り上げ、助言をもとに文章を書き直すよさを感じられるようにしたい。

イ　国語Ｂ　（活用）

《全体的な傾向》
Ｂ問題では、正答率全国平均に対し、本市の平均はやや上回る結果であった。また領

域別に見ても、「話す・聞く」では約２ポイント、「書く」「読む」でも約１ポイント全国平均を上回っている。

また、本市の「無回答率」が、県や全国の平均と比べて低いことにも注目したい。このことは、本市の児童が難しい問題に対しても解答をあきらめず、自分なりの答えを導き出そうとした姿勢の表れである。さらに、誤答した児童がどのような点でつまずいているのかを分析することができる。

1　三　スーパーの店長への質問を条件に合わせて考え、記述する。 （正答率　本市５０．５％　全国５０．４％）
2　一　「早寝早起き活動」の成果について、グラフから考え、選択する （正答率　本市４３．７％　全国４３．４％）
2　二（1）「早寝早起き活動」の課題について、グラフから考え、記述する （正答率　本市４１．８％　全国５１．４％）

◇分析結果

1三の問題は、事前に準備したインタビュー内容と実際の話の流れの両方を考えながら質問を考えなければならず、本市も実際の店長の発言を受けて書けていないという誤答が多かった。この「相手の発言を受ける」というのは、相手の発言内容を素早く的確に理解し、相手に返す力が必要であり、児童の経験も問われる問題内容であったと言える。

2一の問題では、アンケート調査から得られた帯グラフから、取り組みの成果がどのように読み取れるかが問われている。本問は選択式であり、選択１と２は調査より悪化しているという内容、３と４が好転しているという内容である。「成果」の説明である以上、１や２はあり得ないのだが、実際の誤答では１と２が多く、両方を合わせると約４８％にも及ぶ。一方、４を選択した児童は７．７％と少なかった。この結果から、「(活動により)夜十時までにねる人の割合がどうなったか」を問われているところを、グラフ中の「夜十時以降にねる人」の方から読み取ってしまったのではないかと考えられる。それならば、５月より「下回った」「減った」と表現されている選択１や２を選んだ理由も理解できる。そのためグラフを大きく間違えて読み取ったということが考えられる。

2二(1)もグラフから活動の「課題」を分析する問題である。この問題では、前述の2一の設問でも扱ったグラフ〈図１〉とは別の、もう一つの帯グラフ資料〈図２〉を読み取るが、その分析のためにはここまでの文章や〈図１〉の理解も必要となる。本市の結果を見ると、半数を超える５２．２％の児童が条件「〈図２〉の結果を受けて書く」を満たさない誤答をしている。ここからも、本市の児童がグラフ資料の読み取り（データ内容の理解や、グラフ中のどこをどう読み取るべきかの着眼）を苦手にしていることが見て取れる。

◎学習指導に当たって

ア　国語科の学習でもインタビューを行う機会はあるが、その際、単に一問一答式のやりとりに終始せず、相づちを打ったり相手の答えを受けて切り返したりといった言葉のやりとりを丁寧に指導していくことが大切である。本来は総合的な時間などにおける実際のインタビューや話し合い等の言語活動体験を段階的に積ませることが望ましいが、そのためには年間指導計画の見直しも含めた指導の機会および時間の確保が必要になる。現状では、少ない機会をいかに生かし、効果的に指導するかが重要である。

イ　グラフの読み取りについては、算数科や社会科の学習とも関連してくる。各教科の調べ学習などで、どの資料のどこから何が分かるか、それについてどう考えるかといった細かな思考活動を行わせていく必要がある。また、日頃から新聞や説明的文章に触れる機会を多く持たせることも効果的である。